

■ すべり支承の基本特性

国土交通大臣から免震材料として認定された「すべり支承」の基本特性を示します。

各部の形状、寸法 (注1)	すべり部材 長さ L		(mm)	850 , 900	
	すべり部材 厚さ t		(mm)	3	
	すべり部材 内法高さ h		(mm)	58	
	すべり部材 内法幅 Wi		(mm)	105	
	すべり材 膜厚 tp		(μ m)	30以上	
	受け部材 長さ L		(mm)	850 , 900	
	受け部材 厚さ t		(mm)	3	
	受け部材 内法高さ h		(mm)	58, 81	
	受け部材 内法幅 Wi		(mm)	105, 120	
限界性能	限界変形(変位) δ c		(mm)	372 , 397	
	荷重履歴	すべり出し時荷重 Po	(kN)	Po=Pv・μ (Pv: 載荷荷重)	
鉛直性能	圧縮限界強度		(N/mm ²)	12 (注2)	
	鉛直剛性 Kv		(kN/mm)	取り付ける木材による (注3)	
	基準面圧 P ₀		(N/mm ²)	1.5 (注2)	
	引張限界強度		(N/mm ²)	0	
水平性能	切片荷重 Qd		(kN)	Qd=Pv・μ (Pv: 載荷荷重)	
	等価粘性減衰定数 heq		(%)	64	
	規定変形(変位) δ 1		(mm)	100	
製造ばらつき	摩擦係数のばらつき			(%)	±20 (注4)
水平性能の変化率	面圧依存性	μ の変化率 (%)	(0.5 σ o)/(σ o)	+25以下	
			(2.0 σ o)/(σ o)	-25以下	
	速度依存性	μ の変化率 (%)	(V _L)/(V _o)	-20以下	
			(V _H)/(V _o)	+20以下	
		低速値 V _L		(mm/s)	50
		高速値 V _H		(mm/s)	400
	繰り返し依存性	μ の変化率 (%)	(1回)/(3回)	-10以下	
			(10回)/(3回)	+20以下	
			(40回)/(3回)	+20以下	
クリープひずみの変化率				無視できるほど小さい (注5)	

(注1): 寸法精度は別途規定する。

(注2): 圧縮限界強度及び面圧は支承交差部分の投影面積(上下支承の内法幅の積)を受圧面積として算出している。

また、基準面圧は木造軸組2階建住宅(瓦屋根・モルタル外壁の重量タイプ)の平均軸力から設定している。

(注3): すべり支承は十分高い剛性を有するが、取り付ける木材の剛性による。

(注4): 個々の製品のばらつきは±30%とし、ロット平均値のばらつきは±20%としている。

(注5): すべり材の膜厚は40μm程度であり、クリープは無視できるほど小さい。